

最新の画像診断・放射線治療

— 放射線科の仕事って何? —

座談会出席者

(順不同)

山田 恵氏
鈴木耕次郎氏
松尾 政之氏
外山 宏氏
(聞き手) 丹野みどり氏
(京都府立医科大学放射線医学教室 教授)
(愛知医科大学医学部放射線医学講座 教授)
(岐阜大学大学院医学系研究科
腫瘍制御学講座放射線医学分野 教授)
(藤田医科大学医学部放射線医学教室 主任教授)
第55回日本医学放射線学会秋季臨床大会 大会長
(フリーアナウンサー・元CBCアナウンサー)

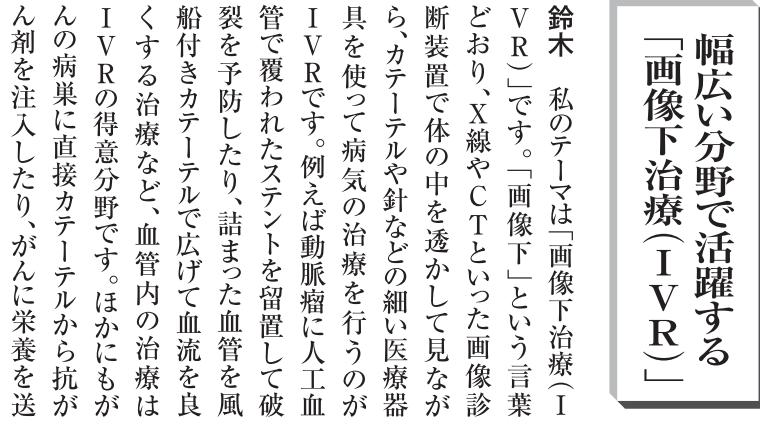


外山 宏先生

10月20日(日)、ワインクあいち(名古屋市中村区名駅)において「第55回日本医学放射線学会秋季臨床大会」のプログラムの一つである「市民公開講座」が開催されます。これに先立ち、当日の講演内容について演者の皆さんに概要をお話しいただきました。放射線科の専門医が医療の現場でどんな役割を果たしているか、急速に進歩する放射線診断・治療や最新の画像診断装置についてなど、市民公開講座への期待が膨らむ興味深い内容でした。



山田 恵先生



丹野みどり氏

医療の進歩に伴い 存在感が増す放射線科医

丹野 最初の演者 山田先生は、放射線科医の仕事として「画像診断」を中心にお話しいただきます。

山田 「画像診断」とはCT、MR

Iなどの装置を用いて病変を見つ

け、正しい診断につなげるとい

うことです。主治医から検査のオーダーを

受けると、その検査内容が適切か、は

かに適した検査方法はないか検証

し、検査後は「読影」による結果を報

告書にして主治医に伝え、患者さん

に説明してもらいます。

丹野 放射線検査で「読影」だけで

なく、検査前から専門医が関わって

いるとは知りませんでした。

山田 患者さんと直接接することの

ない、検査前から専門医が関わって

いることは知りませんでした。

丹野 放射線検査で「読影」だけで

なく、検査前から専門医が関わって

いることは知りませんでした。

丹野 放射線検査で「読影」だけで

なく、検査前から専門医が関わって